



## 『まちへの想い』を育むモビリティ・マネジメント教育

山口大学大学院理工学研究科准教授 鈴木 春菜

モビリティ・マネジメント教育(MM教育)では、-「まち」のことを身近に考える-  
ことが、一つの特徴です。

MM教育には、地域の公共交通だったり、地球環境問題だったり、様々な題材がありますが、多くの事例に共通しているのは、「わたしたちの普段の移動を理解・共有」して  
「みんなのためにより良い交通を考え・行動する」取り組みであることです。

その過程では、今まで行ったことがない場所、使ったことがない道や交通機関、みんなが意外と近くなのにクルマを使っていることなど、まちの新しい側面を「発見」します。また、地域公共交通の問題や環境問題、居住地や商業施設の郊外化などの理解を通じて「わたしの移動」や「わたしのための車両」が集まって、「わたしたちのまち」に影響を及ぼしていくことを学びます。さらに、クルマが使えない年齢になったらどうなるだろう?クルマが使えない人はどうしているのだろう?と、自分たちの将来や困っている他者のことを想像しながら、より暮らしやすい「まち」とそのための具体的な行動を考えます。普段の生活に欠かせない移動を対象にしているからこそ、自分たちに取り組める身近な解決方法を主体的に模索することができるのです。

このように、MM教育は、身近な交通を題材に俯瞰的に「まち」を眺める視野を育み、「まち」を知り行動することを通じて「まちへの想い」を育て、社会集団の一員としての自覚を育むと期待されています。